

令和7年

第11回10月定例教育委員会議事録

令和7年10月29日

大野城市教育委員会

次 第

- 1 招集日時
 - 招 集 日 令和7年10月29日
 - 開会時間 午前10時30分
 - 閉会時間 午前11時05分
- 2 招集の場所 大野城市役所 本館3階 災害対策本部室
- 3 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 議事録署名委員の指名
 - 令和7年第10回9月定例会議事録の署名委員 山口 典子 委員
 - 令和7年第11回10月定例会議事録の署名委員 藤河 久美 委員
 - (3) 議事
 - 第37号議案 大野城市転入学検討委員会委員の委嘱について
 - (4) 報告
 - ①令和7年度学力調査結果報告書について
(全国学力・学習状況調査、福岡県学力実態調査)
 - (5) その他
 - ①大野城市立小中学校 令和7年度卒業証書授与式および
令和8年度入学式の日程のお知らせ
 - ②教育長の職務代理に関する業務報告(9月～10月)
 - ③教育委員会の主な行事・業務の予定(11月)
 - (6) 閉会
- 4 出席した委員等 高野 英機(教育長職務代理者) ・ 山口 典子
藤河 久美 ・ 佐藤 友恵 ・ 關 知子
- 5 欠席した委員 なし
- 6 出席した職員 教 育 部 長 若山 純哉
教 育 総 務 課 長 光野 直隆
学 校 ・ 地 域 連 携 課 長 松岡 真彦
学 校 ・ 地 域 連 携 課 長 中原 英貴
教 育 支 援 課 長 山崎 栄子
教 育 支 援 課 主 幹 指 導 主 事 山川 周作
ス ポ ー ツ 課 長 甲斐 めぐみ
教 育 総 務 課 係 長 川口 司寛
教 育 支 援 課 総 括 指 導 主 事 井上 和博
教 育 総 務 課 担 当 山口 剛侍郎
教 育 総 務 課 担 当 橋本 由美
- 7 会議の書記 教 育 総 務 課 担 当 橋本 由美

午前10時30分 開会

○教育長職務代理者（高野委員）

おはようございます。10月の定例教育委員会をただいまから開会いたします。
傍聴の希望はございませんね。

〔議事録署名委員の指名〕

○教育長職務代理者（高野委員）

それでは、議事録の承認に移りたいと思います。

9月定例会にて、山口委員に議事録の署名をお願いしておりました。

今回の議事録の署名については、藤河委員をお願いいたします。よろしくお願ひ
します。

〔議事〕

○教育長職務代理者（高野委員）

次第3、議事に入ります。

〔第37号議案 大野城市転入学検討委員会委員の委嘱について〕

第37号議案、大野城市転入学検討委員会委員の委嘱について、山崎教育支援課長、
説明をお願いいたします。

○山崎教育支援課長

それでは、1ページをお願いいたします。

第37号議案、大野城市転入学検討委員会委員の委嘱について説明をいたします。

大野城市転入学検討委員会につきましては、大野城市学びの多様化学校に関する取
扱要綱第5条第2項の規定に基づき、教育委員会が委員を委嘱することとされてお
りますので、今回承認を求めるものでございます。

2ページをお願いいたします。

委嘱の期間は令和7年10月29日から令和8年10月28日までとしております。

説明は以上でございます。

○教育長職務代理人（高野委員）

ありがとうございます。

ただいまの説明について質問はございませんか。

ないようですので、これより採決に入ります。

第37号議案について、承認することに異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議なしですので、第37号議案について承認すべきものと決めます。

〔報告〕

○教育長職務代理人（高野委員）

次第の4、報告に入らせていただきます。

令和7年度学力調査結果報告書について、教育支援課、井上総括指導主事、説明をお願いします。

○教育支援課井上総括指導主事

おはようございます。教育支援課の井上と申します。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、令和7年度における学力調査のまとめにつきまして報告いたします。

添付資料の学力調査結果報告書をご覧ください。

なお、内容が非常に多くなっておりますので、こちらでは概要と傾向についてのみ報告させていただきたいと考えております。細かい分析内容につきましては、紙面でご確認いただきますようお願いいたします。

それでは、資料の2ページをご覧ください。

こちらは、今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、大野城市と全国、福岡県の平均正答率を比較したものになります。小中学校ともに全ての教科で、全国、福岡県の平均正答率を上回っていることが分かります。前年度との比較につきましては、小学校が約3ポイントの低下、中学校が若干の上昇という結果になりました。しかしながら、小中いずれも全国、福岡県を上回っており、本市の学力は高い水準を維持していると言えるかと思えます。

次に、3ページをご覧ください。

こちらは、全国学力・学習状況調査の全国比について、平成26年から10年間の経年変化を表したグラフになります。これによりますと本年度については、小学校が低下、それから中学校が上昇しているなど、年によって差はありますけれども、この10年間を見ていくと常に全国比を上回るということが言えるかと思えます。

続きまして、4ページ、5ページをご覧ください。

こちらは大野城市、福岡県、全国の四分位層比較になります。こちらからは、小中ともにA、B層の割合が、全国、それから福岡県よりも高くなっていると言えるかと思えます。こちらに関しても、上位層が非常に多いということで、高い水準で学力が維持されていると言えるかと思えますが、5ページ、中学校になりますけれども、丸の下になりますD層の割合が、国語が17.3%、それから数学が18.2%と高くなっています。これは福岡県にも全国にも当てはまることですが、理解度の二極化が進んでいるのかと考えております。そのため、それぞれの生徒に合った効果的な学習指導をこれからより一層強めていく必要があると考えております。

続けて6ページ目、7ページ目をご覧ください。

こちらは同一集団の比較になります。ここでは、小中ともにA層が減少、それからC層の増加ということが言えます。また、中学校ではD層の割合も高くなっているということも言えます。これらのことから、学力全体は維持できているものの、A層からD層まで全てをフォローできるような個別最適な学習や個別の支援が必要になってくると考えております。

続きまして8ページから11ページをご覧ください。こちらは教科の領域別正答率を表したものになっております。

まず、小学校では国語、算数、全ての領域で福岡県、全国の数値を上回っています。このことから、各授業において、学習指導要領における領域の視点からも、バランスよい指導がなされているということが言えます。

一方、中学校です。10ページからになりますけれども、中学校においては、小学校と同様に高い水準を維持することができていますが、国語の一番上になります、言葉の特徴や使い方に関する事項というところが、全国、それから福岡県の数値を下回っております。

こちらにつきまして、問題を確認すると、この日本語はどのような場面で使いますかという問いでした。対象となる問題自体が2問であるということと、言葉の使い方というところで、正答率が非常に低い結果が出ておりました。この後、出てきますけ

れども、この項目に関して、ほかの学年は全て福岡県の平均を上回っていることも分かりましたので、さらに分析を進めながら、今後どのような形で指導していくかということが提案できるように準備をしていきたいと思っております。

それから、12ページになります。ここからは、生徒質問紙の調査の結果について、県と国との比較を表したものになります。

まず、13ページになりますけれども、学びを調整する力に関する回答項目になります。問いの31番、発表の仕方に関する項目に対して肯定的な回答をした割合が、小学校が52.2%、中学校が54.8%と非常に低くなっております。これは県や国と比較しても低い数値となっていました。一方で、32番、自ら課題解決をする、それから、33番、まとめる力に関する項目の割合は70%を超える結果になっておりました。これらのことから、授業において課題解決に向けて自らまとめる力はあると感じているものの、感じたことをうまく自分の考えとして伝えることができているのではないかと考えております。

少し飛びますが、15ページ、16ページ、問いの13番の意見の相違という項目についても、小中ともに低い数値となっておりました。これらのことから、他者との関わりという部分に今後は力点を置き、人間関係づくりなどを意識した指導をしていくことが必要ではないかと考えております。

14ページに戻ります。

粘り強く挑む力という項目になりますが、問いの7番、夢や希望があるという項目については、県、それから国を上回っておりました。この数値につきましては、ここ数年、大野城市の児童・生徒は、県、国を上回る結果となっております。その要因として、大野城市では、総合的な学習の時間などにおいて地域社会や大人と関わっていくような取組を行っていることが、将来に向けた展望を持てるということにつながっているからではないかと考えております。

それから、17ページになります。こちらは経年比較となっておりますので、これまで書かれていることの昨年度との比較を載せています。

続けて、18ページになります。

その他の質問において、いくつかの項目が書かれておりますが、二つピックアップしてご説明いたします。

まず一つ目、18ページの①生活に関する項目の「朝食を毎日食べていますか」とい

う項目になります。こちらについては、グラフを見て分かる通り、多くの子どもたちがきちんと朝食を食べているということがわかります。「どちらかといえば食べている」も含めると90%を超える数値になっております。ただ一方で、全く食べていないという児童・生徒がそれぞれ1%、2.5%いるということも分かっておりますので、こちらについては、教育相談等含めて、どのような状況なのかということは今後学校のほうで明らかにし、改善を図っていく必要があると考えております。

それから、20ページになります。

授業に関する項目になります。こちらは、授業の中でパソコンやタブレットなどのICTをどの程度使用しましたかという問いです。こちらについては福岡県を上回り、全国よりもやや高い数値になっております。本年度も、大野中学校で市の研究発表会がありましたが、多くのクラスでICTを活用しながら授業をしていたと感じています。このように、大野城市ではICTの活用が非常に有効になっているのではないかと考えております。

続きまして、23ページをお開けください。ここからは、本年度の福岡県の学力調査の結果となっております。

概要としましては、小学校5学年、それから中学校1学年、2学年、それぞれが福岡県の数値を上回る結果となっております。

23ページの経年変化のグラフをご覧ください。

令和4年度というところが四角で囲んであるかと思えます。これは、次のページに中学校第1学年、第2学年ということで、同一集団を表したものになっております。ここからも分かる通り、小学校5学年、それから中学校1学年、2学年と順調に学力を伸ばすことができているということが言えます。これは、全国学力・学習状況調査では対象が小学校6学年、中学校3学年となっておりますが、それぞれの学年で効果的な指導がなされている結果ではないかと考えております。

25ページからは、調査の結果につきまして、学習指導要領の領域別の数値を表したものになります。先ほど、言葉の特徴や使い方というところが、中学校3学年で全国、福岡県の平均を下回ってしまったという説明をいたしました。福岡県の学力調査においては、それぞれが105%以上の結果を残しております。

それから、特徴的なところとして、26ページ、27ページをお開けください。

ウの項目で正答率分布というものを載せております。棒グラフが大野城市になるんですけれども、まずは小学校5年生の算数で言うと、福岡県と大野城市の傾向の違い

が、大野城市では60%から70%の割合が非常に高くなっているという点です。50%以上の分布が福岡県よりも高く、特に6割、7割取れている児童の割合が非常に高いところが全体の数値を上げているのではないかと思います。

それから、中学校1年生の国語、27ページのウの正答率分布を見てみると、こちらも福岡県の傾向としては90%から100%の割合が下がっていったんですけども、大野城市ではここが非常に高いという結果となっております。

あわせて、28ページにつきましても、中学校1年生の数学では、福岡県は20%から30%、それから30%から40%の割合が高いんですが、大野城市では80%から90%の割合が非常に高くなっているということが全体の数値を押し上げているのではないかと考えております。

同様に、中学校2年生の国語につきましても、70%から80%、それから、30ページの数学でも60%から70%の数値が非常に高くなっていることが全体の数値を上げることに繋がっているかと思います。

こちらの結果につきましては、学力向上及び主幹研修等を通じて学校にも報告しながら、今回課題として見えたところの改善を図っていこうと考えております。

説明は以上になります。

○教育長職務代理人（高野委員）

ありがとうございました。

最後に一括して質問を受けたいと思います。

[その他]

- (1) 大野城市立小中学校 令和7年度卒業証書授与式および令和8年度入学式の日程のお知らせ
- (2) 教育長の職務代理に関する業務報告（9月～10月）
- (3) 教育委員会の主な行事・業務の予定（11月）

○教育長職務代理人（高野委員）

報告ありがとうございました。

先ほどの次第4、令和7年度学力調査結果報告書の報告も含めてご質問がございましたらどうぞ。

山口委員。

○山口委員

学力調査の報告、とても分かりやすいご説明いただきまして、ありがとうございますました。

こうやって数字で見ると、大野城市の小中学生の学力に関して、大野城市の学校の先生方のご指導に感謝するのと、状況に安心したのと、そういった気持ちでお聞きしました。

今後、先生方にも結果を報告して、士気を高めていただければと思います。
以上です。

○教育長職務代理者（高野委員）

私からもいいですか。

学力調査の11ページ、中学校数学。他の教科と分布の仕方を見て、非常に二極化していると感じました。私は、恐らく問題の作り方に原因があるのではないかと思うんですね。実際に問題に目を通してないので分からないんですけど、先生方はどうでしょうか。

前もこういうことがあって、問題に原因があるのではないかと言ったことがあるんですけど、普通、調査の中で、こういう表れ方はしないですよ。恐らく原因は問題の作り方だろうと思いますけど、こういうデータが出てくると、こういうデータでは学力は分からないのではと疑問に思います。不思議なデータの出方をしていると感じますので、その辺、今後の学力調査についても、問題の作り方を精査してもらうことを要望で出したほうがいいのかなと思います。

ほかにございませんか。

○教育長職務代理者（高野委員）

ないようですので、これをもちまして10月の定例教育委員会を閉会いたします。

午前11時05分 閉会